

「東京真田町の会」会報

日本タボス

平成 15 年 12 月 25 日



懐かしい烏帽子岳の雄姿

…… 中秋のふるさと風景 ……

写真提供：中山勇次氏

NO.

16

懐かしいふるさとの風景から・1

写真提供：真田町役場 武拾 義夫 氏

写真撮影：編集部 武拾 衛人



曲尾たんぼの雪景色



真冬の雪中の夜警…ふるさとの冬は厳しい

桜満開の…
“長谷寺(ちようこくじ)”



“山家神社(やまがじんじや)”の春



菅平高原の秋の路傍を彩る花々

菅平高原のメイン通り…
澄んだ空気、青い空



角間温泉…昔湯治場、今“秘湯”



大日向の“和熊橋”付近から上流を望む

東京真田町の会と共に

会長 塩沢和政



東京真田町の会の皆様、真田町民の皆様にはお健やかにお暮らしのこととお慶び申し上げます。常日頃東京真田町の会の運営にいろいろご支援賜りまして誠に有難う御座います。本年も去る七月六日第十六回定期総会並びに懇親会を開催いたしましたところ会員、百七名の皆様と、真田町からは箱山町長さん、佐藤議会議長さんをはじめ二十数名の議員その他、御来賓の御出席を戴き盛大に行う事が出来ました。これも偏に皆様方の絶大なる御協力のたまものと深く感謝申し上げます。総会で箱山町長さんの御挨拶の中で現在の真田町の状況等のお話をお伺いいたしました。その中で上田市、丸子町、真田町、武石村の四市町村任意合併協議会のお話がありました。私共ふるさとを離れたものにとりまして、四市町村

の合併により市の名称がどのようなになるのか非常に気になるところであります。今その準備のため住民懇談会等のお仕事で役場の皆様も大変お忙しい事とご推察申し上げます。どうかこの準備作業が順調に進捗するようにと願っております。今年も真田町との交流といたしまして、四月に春季親睦ゴルフ大会、六月に真田町民ゴルフ大会、十月に秋季親睦ゴルフ大会へ会員有志の皆様と参加しました。八月の真田祭りの花火にご招待戴きまして行って参りました。また十月一日の真田町発足四十五周年記念式典にご招待を受け、飯島副会長と山口副会長と私が出席いたしました。記念式典では功労者表彰が行われ十七名、四団体の皆様表彰されました。その後祝宴が開かれ、二百五十名を超す皆様の出席がありとても盛大でした。ここにも真田町の発展している勢いが感じられました。これからも、東京真田町の会と真田町の交流と親睦をますます深いものになしたいと願って止みません。

今年もまもなく終わりになろうとしています。この一年を振り返りますと、世界で、また日本でもいろいろな出来事がありました。イラク戦争、中東紛争、テロ、北朝鮮の核開発問題等どれ一つとっても一筋縄ではかたずかない物ばかりです。イラクについては、チグリス川とユーフラテス川の間に発達した世界最古の文明ともいわれるメソポタミア文明発祥の地でもあります。それがあのようなことに遭うとは非常に残念な事です。日本でも、台風、洪水、火災、冷害等数え上げるときりがありません。私たちは世界中が平和で安全に暮らせる事を念頭に置いて行動していかねればならないと思います。それにはひとりひとりが交流と親睦を深めていく事が大切です。私たち東京真田町の会も会員同士がますます交流と親睦を深め友好関係を築いて、皆で楽しく活気のある会に発展させて行くのではありませんか!! それには会員の増強も大切です。会員の皆様のご協力とご支援を切にお願いする次第です。私も役員一同も力を合わせてがんばりますのでよろしくお願いいたします。私も昭和六十三年に東京

豊かで明るい将来を目指して

故郷は今



真田町長 箱山好猷

真田町の会の設立準備会委員に、参加させて頂いて以来お世話になつてもう十五年が過ぎました。その間会員の皆様と真田町の皆様に御協力、御支援を戴き大変感謝しております。これからも会の運営と発展のために微力ながらお手

伝いさせていたたくつもりです。今年もあとわずかとなりましたが、会員の皆様、真田町民の皆様、風邪など召さぬようくれぐれもお体を大切に、良い年をお迎え下さい。

東京真田町の会々員皆様には常々故郷真田町のために温かいご支援をいただきましてありがとうございます。「日本ダボス」の誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。真田町は今、全国3、200余りの市町村と同様およそ50年に1度という平成の大合併の波に洗われています。町では平成14年12月から上田市、丸子町、武石村とともに任意合併協議会を設立し、新設対等合併、分権型合併を目指し20年後、30年後の子や孫の時代に安心して豊か

に暮らせる新しい地域社会をつくるために話し合いを進めてまいりました。12回に及ぶ協議会において、協議すべき基本的な協議項目を始め227項目の各種事務・事業の取扱いのほか新市将来構想や新市の名称候補の選定など、新市の方向性、方針がイメージできる形としてまとまりました。新市将来構想につなげるべく各区3名の代表者による「明日の真田を考える100人委員会」を14年12月に立ち上げ、熱心に議論を重ねていただき、本当に真田を思う熱い気持から素晴らしいご意見やご提言もいただきました。

今回は新市のビジョンである新市将来構想のあらましについて会員の皆様にお知らせしたいと思います。

キャッチフレーズ（将来

像）として「日本のまんなか（なか）がまん中生活快適都市」をかげ、サブタイトルは、「水跳ね緑（みずはね）がやき空（あか）ころ晴（は）れわたるまち」としました。そしてまちづくり基本理念には、自立と協働・循環と交流・創造と調和の3本の柱を立て、まちづくり基本方針として、6項目を定めました。

（1）認め合い自ら動き個性（個性）きわだつ（都市から農村まで、それぞれの地域性と多様なコミュニティ活動を大切に、個性が光、自立の精神が宿る分権型社会を形成します。）

（2）知恵（みか）集め技術磨き（来（き）ひらく（地域の知恵・知識・資源を生かし、元氣あふれる産業の振興と地域内循環型経済の構築を図ります。）

（3）水跳ね緑（みずはね）がやき文化（文化）はぐくむ（菅平と美ヶ原の二つの高原、緑あふれる里山、清らかな水に育まれた自然環境と、独自の文化を創造した伝統を未来へ引き継ぎます。）

（4）生活快適（せいかつ）住んでよかった（暮らしを円滑に結ぶ交通

体系を築くとともに、安心・安全・快適な生活環境を実現します。）

（5）支え合い健やかに（女（ひと）男（ひと）いきいき（先進的な生涯健康づくりをさらに高め、赤ちゃんからお年寄りまでみんなが実りある人生を送れるよう共に支え合います。）

（6）学び育ち（子ども）たちが（子どもたちの生きる力を地域社会全体で育むとともに、学術研究都市機能を生かした、いつでも誰でも学べる環境を、発展させ、新しいまちづくりを担う人間性豊かな人材を育成します。）

として、各基本方針ごとに二つのプロジェクトを立ち上げ、国内はもとより、世界に発信できる地域社会を建設してまいりますので、会員皆様は故郷に大きな期待を持ってお見守りください。



東京真田町の会総会に参加して

真田町議会議員 合葉 詔次



ビシッビシッとの音で目が覚めた。起きてみると、母が焚き木を折り「へっつい」に火をつけている、まだ薄暗い。我々兄弟も多く、育ち盛り、食べ盛り。当時どこの家庭でも子供が多く、それぞれの母親は大変だったと今になって思います。

後になって聞いた話だが、昔は暮れになれば餅を一俵もつき、いろいろ後片付けを終え、一番最後に風呂に入り日中の水仕事でアカギレが出来、それがお湯の温かさで傷みも和らぎ一日の疲れから風呂の中でうとうととしてしまったとか。

その頃は学校への弁当は大抵餅であり、その弁当箱を学校のストープの廻りで温めると何故か沢庵の臭いがしたものだ。そんな金銭的には恵まれない

し込んでしまいました。恒例の輪踊りと高野辰之の「ふるさと」を斉唱し万歳で締め閉会解散となりました。それぞれ再会を誓い固い握手を交わし、バスに乗り帰路につきました。

車中目を閉じ東京真田町の会の皆さんの姿を思い起こし、今わが町の当面の課題の合併問題では、わがふる里の山、川、田んぼ等自然の美しさを大切に、昔近くの川で魚が沢山とれ、田んぼの周囲にはホタルが乱舞しそれをネギの中に入れ持ち帰り家の中であかりを消して蚊帳の中に放ち、幻想的に成ったこと。こう云った心に思い出として残ることを、もう一度蘇らせ、子供達の元気な声、姿が見られる環境整備に努め、東京真田町の会の皆様が何時でも帰郷できる山紫水明のふる里を残し、後世のためにも真剣に取り組もうと意を強くしました。

結びに当たり東京真田町の会の益々の発展と会員の皆様様の御健勝と御多幸を御祈念申し上げます。



帰郷・近況

顧問 三井芳郎

(大庭出身)



永年住み馴れた東京から生まれ故郷の真田町に帰りまして。早いもので昭和二十六年に上京してから五十三年が経過しました。今年の三月末日をもって、私も家内も勤務が終わりましたのでこれを機にユーターンいたしました。東京真田町の会の皆様と真田町のみなさんには長い間大変お世話さまになりました、心より御礼申し上げます。

九月十六日に真田町役場に行き、転入届をして正式に真田町の町民となりました。久しぶりに郷里に落ち着いたわけですが年に数回は帰省していましたが、違和感はなくございます。町の方々も近所の方々も大変親切で、あたたかい気持ちで迎えて下さり、「ふるさとはいいなあ」としみじみと心に感じ、感謝の念

で一杯です。

住居は傍陽の大庭区で太郎山の麓にあります。父が建てた家で四十五年経っていますので少しリホームして住みたいと思っています。烏帽子岳から昇る朝日は早いのですが、日没も早く、夏でも三時頃は太郎山に日が沈みます。毎日、遠く東方に烏帽子岳を眺め、目の前の根子屋城(ネゴヤジヨウ)跡と太郎山を眺めて暮らしています。今正に全山錦の紅葉を眺めています。

家の近くの島には親戚のおじさんが日常生活に必要な野菜を作って下さっており、これからの収穫を楽しみにしているところです。近年は、山に住んでいる動物が人間の住む里に出没して農作物を荒らすので困っています。動物はイノシシ、イノブタ、シカ、タヌキ、等で、ジャガイモ、カボチャ、大豆、トウモロコシ、リンゴ等を食い荒らしているそうです。今年はたんぼの稲がイノブタに食い荒らされたところが数カ所あったそうです。リンゴ園は電線を張り巡らして、夜間は電気を通して防いでいます。私の家から二キロメートル位のリンゴ園には毎年一度は熊が出てリンゴを食い荒らすそうです。

最近家の庭を歩いているハクビシンと云う動物を初めて見ました。鼻のところが白くて、猫より少し大きい猫科の動物です。木にも登り悪さをします。又、軒下にある履物を片方だけ持っていくって山の中に集めてあると云うことです。猟友会の人たちも夜明けから日没までしか鉄砲が撃てませんので、夜間に出没して悪さをするこれらの動物には手をやいています。

十月も末となりました。全山紅葉の真田町の山々も落葉が始まりました。そして朝夕はめっきり寒くなりました。「こんなに寒くてエボシのテツペンが三回も白くなれば、へーもみじもダメダイナー」「そうだな」「オツカレー」、「オツカレー」と交わす夕暮れのあいさつも久し振りでなつかしいです。

真田町に転居して一ヶ月半たちました。昼間は美しい山々を眺め、夜はまばゆいばかりの星空を眺め、北斗七星は、北極星はどこかを確かめ、今年の火星は特に美しく輝いていると感心したりして家内と二人で都会とは違った静けさの中で暮らしています。これからはふるさと真田町

より、東京真田町の会の皆様様の御健康を祈り、会の発展をお祈りして居ります。

古里の山に向ひて言うことなし

古里の山はありがたきかな

(啄木)

この歌は今の私の心境です。(平成十五年十月二十八日)

近頃の私と

思い出

野村富子

(萩出身)



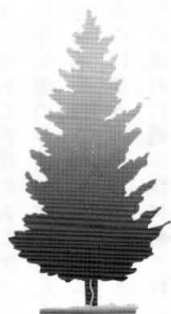
秋紅葉の見ごろですが出かけて来ませんかと故郷の旧友より便りが届き、その中の文で、お互い離れ離れに暮らしてもう半世紀を過ぎました今更ながら元気に居られることに感謝しましょうと有り、日々生活に追われ、きずかなかつた自分に気恥ずかしく思うと共に過ぎ去った子供の頃の

日々が走馬灯の様に懐かしく思い出されました。

学校が終わりに帰ってから遊ぶのに必ず妹が弟の子守をしながらかつたもので、妹の居ない子はよその子の子守をしたものでした。初孫を預けられたおばあさんが心配でお子守りのあとについて来てくれていた事を思い出します。2、3年生の頃でしたかしら。

4、5年生くらいに成ると遊びに行く範囲が広くなり、入軽井沢の友達の家(4km位)に行ったりしたものでした。当時はバスもない頃でしたのに毎日学校には徒歩通学の時代でした。山、川、野原、全て遊び場だった故郷、危険は無かったのかしらと今ごろ思っています。

最近の私は約3坪位の畑をお借りして家庭菜園にて楽しみ、社会を考える会の皆さんとフォーラムに参加したり、年4、5回ある寺院や名跡を歩く会に参加しながら健康に感謝している毎日です。



地域コミュニティの持つ力

真田町区長会長 三井秀雄



町民の誰もが真田町は「自然に恵まれたよい環境にある」と言います。

今年6月真田町文化会館で開催された「第19回真田町青少年健全育成町民大会」の「子どもフォーラム」の中で、進行政役であるコーディネーターが子供達に真田町のよさについて尋ねたところ、「自然」という言葉が多く聞かれました。東京真田町の会の皆さんもふるさと真田町について語る時と同じように「自然の豊かさ」や、「人々のまとまり」を自慢されているかと思えます。真田町の山や川、そこに生きた動物、そしてそこに住む地域の人々がうまく調和し合っている自然の豊かさが誇れるのではないでしょうか。

今年1月、岡保区の区長としてまた町の区長会長として、1年間ではありますがその任務に就きました。区長とは、他地域では自治

は解決が難しい青少年の健全育成の問題、人権問題や学社融合などの課題解決においての役割は重要であります。それゆえに今、この地域コミュニティとしての区の役割が見直されているように感じています。

町では平成10年度より「特色ある地域づくり事業」を通して、各区での自主的な運営による「独創的なものづくり」や「ふれあい活動」に対して補助金を出したり、活動の支援を行ってきています。

今までに各地域での取り組みにより「里山の整備」、「史跡の整備」や「お正月のしめ縄づくりの講習」など87件の事業が行われてきています。この事業の特徴は、自分たちの手でつくりあげることにより、それにより必然的に薄れてきている地域での交流や連帯感が取り戻せることにあります。

とかく行政に頼りがちになってしまった現在ですが、自分たちの地域で出来ることは自らの手で行う。この「地域づくり」が「町づくり」にもつながるものとなります。区

という地域コミュニティは小さいながらも、大きな力を秘めていると私は信じています。現在、真田町上田市丸子町武石村との合併構想が進められておりますが、仮に市町村合併がされて真田町の姿は変わっても、変わってはいけな

いものの一つに区という地域コミュニティがあります。この地域コミュニティに「歴史と文化に培われた真田町の魂」が入っている限り、真田町は残ります。

先人の方々が長い間をかけてつくりあげてきた区（地域コミュニティ）を大切に思う思いで、残された期間与えられた職務を遂行していきます。

『小さな旅』

佐藤昌江

(秋出身)



トゥルル、電話が鳴った、姉からだった。「あのね、真田町の会の旅行にナカチャンも姉妹で参加するから私達も一

緒に行ってみない」と誘われ、「行ってみないネ」と云うことで旅行が成立！

当日朝八時三十分集合場所の新宿駅小田急線の改札口へ、もう皆さん集まっていた。九時発のロマンスカーが発車する。ゆったりとした座席に腰を下ろす。車窓から眺める早秋のやと黄色く色づき始めた木々がスピードに乗って通り過ぎて行く。賑やかに語らい笑い声も弾む、やがて壮大な相模湾が見えてきた、まもなく湯河原に到着する。

初めて降りた駅、少し旅人気分、バスが十分程で「杉菜」に着いた。風格のある保養所だ。広いロビーで小休憩して街へ散策に出かける。

近くにある福泉寺の大きな首大仏を見学、そしてお茶処の手打ちそばで昼食をとる。バスで不動滝へ、落差十五メートルの滝に圧倒されます。

そこからしばらくゆるやかな坂道を歩いて「湯河原ゆかりの美術館」で一休み、館内

では竹内栖鳳と小野竹喬展が開かれていて、竹内の「宇佐幾」と「喜雀」は心にしみ込む逸品でした。

湯河原は海と自然と温泉に恵まれ、豊かな歴史文化を残

す、多彩な表情のある街で、万葉公園の万葉の歌碑は足を留める面白さがある。藤木川沿いに歩き、川沿いに歩き、川の流れて遊ぶ鴨に見とれ、道端に咲く花々を観賞しながら宿に着く。

それぞれの部屋でくつろぎ、お風呂でゆったり湯船に身体を沈めて疲れを癒す。

翌日、バスに揺られて真鶴に着く、広い道を少し歩くと潮騒遊歩道に出る。県立自然公園になっている常緑広葉樹林を抜けるとダイナミックな海岸に出る。遊歩道近くまで寄せる白波が岩に砕け散る。

眺望の良い高台に建つ食堂で、バーベキューに舌づつみ、残り時間が少なくなってきました。

バスで真鶴駅へ、小田原からロマンスカーで新宿へ着く、総てを満喫して旅は終わります。お世話になりました、有難う御座居ました。又参加させて下さい。



『方言』と『訛』

柳沢喜三郎

(秋出身)



真田町に生まれ育った約30年間、身についていた方言について紹介いたします。帰郷する際列車が碓氷峠を越えて、軽井沢、御代田、小諸など上田に近づくにつれて、乗降する人々の口から耳慣れた上小独特の微妙な発言、抑揚、強弱のある言葉を聞いた途端にこれが故郷だなあと云う親しみを強烈に感得する。今は新幹線になり、あつと云う間にこれらの駅を通過し旅情を味わう余裕など更々ない。最近ではテレビや交通機関の発達により、方言に親しむ機会が少なくなり、誠に悲しい限りだ。

抑、方言や訛は、その地域の気候風土と長い生活環境を経て、その地方にしか無い独特のものであり、私達はこの伝統ある言葉を大切にしたいものです。

信州は寒い故か、余り大

く口を開かない面があるので、はなかるうか？ 例えば「年をとると」がトシーすると、となり、トシーするとづくがなくなり、人前に出るのがしようにくって……等々、

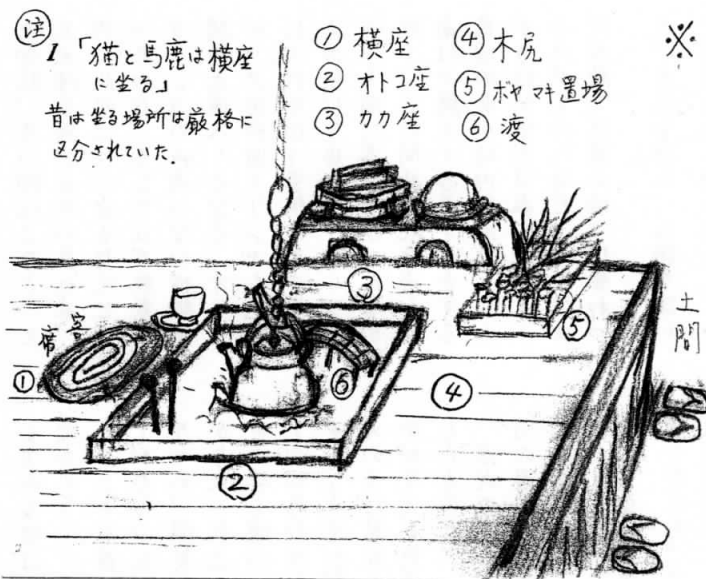
寒い山形県あたりでは、多くを話さないで「ケ」「ク」で事足りる面もあるとか、これを食べるケ？ 食べる(食う)簡単にケ、クでお互いの意志が通じるとか、

寒い所で思い出したのが津軽半島の話、昭和五、六年頃、満州に馬賊の頭目(日本人)が居り、関東軍が投降を勧告したが、仲、これにに応じて来ないこれが最後の交渉の時に、津軽半島出身の軍使を交渉に当らせた所、交渉成立したが、その肝心な点は馬賊の頭目も津軽出身で有り、相互の言葉のやりとりの間になつかしい津軽の訛があったのが最大の原因だった事が判明した。方言や訛によって処世上有利になった例は私の経験上からも枚挙に遑がない程だ。

一、方言の二面性、死語

(一)「鎌を研ぐ」

昭和12、13年頃、出征兵士の家に勤労奉仕に行った際、岡保の分教場の先生が、ある先輩に〇〇さんは鎌を研ぐことが上手だそうですと云われ〇〇さんが困惑していた事を



(注) 1 「猫と馬鹿は横座に坐る」昔は坐る場所は厳格に区別されていた。

(注) 2 「長幼の序」を守っていた昔の学校では先生に上下座を要求するおな事はなかった。

思い出す。「鎌を研ぐ」とは別の意味で要領よく休憩するのが上手と云う意味もあるのです。今は動力草刈等でその機会も少なくなりました。

(2) わたし(渡)又は(渡金)これは餅、魚肉などを焼く時の鉄製格子状の道具であり、囲炉裏に常時置いてあった。今の若い人達にはこれを知っている人は殆どいないでしょう。

二、さて本論に入って

(1) 接頭語が多い

〇オツボシヨル(折る)

〇シツチャバク(破る)

〇フンジバル(強く縛る)

〇オツタマゲタ(驚いた)

〇カツクラセルゾ(ぶったたく)

〇サツクベル新などをくべる…火に入れてたく

〇シヤラカマワネ(全く気を配らない)

〇タタッコロフ(強く転倒する)

(2) 目立った方言

〇オオタラ(気楽な、のんき者)

〇アツクイ(かかと)

〇アマブレクセー(こげ臭い)

〇オザンザ(煮込み手打ちうどん)

〇エベ(行け、行こう)

〇イコジル(我意を張る)

〇オオケン(適当、いい加減)

〇イカズ(行こう)

〇イッケル(載せる)

〇オヤゲネー(可哀相、同情)

〇アカナベ(夢中になること)

〇ダレサ(否定)

〇イノグ(リンパ腺がはれること)

〇カマケル(働く、忙殺される)

〇クネ(垣根)

〇キユウトクスル(急死、気絶する)

〇キズケーナ(人を配らなければならない人)

〇ゴワス(ごいいます)

〇カカシラウ(嘲笑する)

〇シャガシガスル(萎縮する)

〇ズクナシ(急げ者)

〇シヨーシイ(恥ずかしい)

〇シコッテイ(しょうがない、どうしようもない)

〇ストト(類白)

〇サツツア(存分、十分)

〇ゴイラ(豆殻)

〇ケコロ(目分量)

〇ゴーガイレル(腹が立つ)

〇キンナ(昨日)

〇トブ(飛ぶ、走る)

俺らがの信濃に世界がやって来た



柳沢 實

(萩出身)

- タークラター(思慮なし、馬鹿者)
- ドローク(むずかる、すねる)
- ナカラ(大体)
- ワニル(恥ずかしがる)
- メタメタ(減多、やたら)
- ノーレル(暑くゆだる)
- ナンシ(下さい)
- パンキリ(毎度)
- ベト泥、土)
- マネル(告げ口をする)
- マル(用便をする)
- マテー(つましい、儉約家)
- ワンダレ(お前達)

以上思い出すままに申し上げましたが、紙数の関係で、十分に意を尽くせない点が多いと思います。少しでも昔を思い出して戴き連帯感を持ってもらえれば幸いです。

既にあれから片手に余る歳月が流れた。日本国長野発オリピック情報を記録として活字にして残したい。私はあの感動を真田町の皆さんはもとより長野県民総ての皆さんと共有したい、こんな思いで手元に残る僅かな資料と忘れかけた記憶を辿り実況を綴ってみた。

此処長野オリピックスタジアムを中心に軽井沢町、山ノ内町、野沢温泉村、白馬村の五市町村の競技場に世界七十二ヶ国地域より二千数百余名の選ばれた人達がやって来た。我が愛する郷土で雪と氷の祭典、その開会式の模様は衛星を通じて全地球に同時放送され、列島の三基地より発した聖火は三つのルートを駆けぬけ開催県で一つとなり県都を代表する寺院、善光寺の鐘の音と共に五輪の開幕で有る。幾つかの日本文化も披露され、木遣り、東西南北に建てられ

た御柱、その御柱よりさつと五大大陸を顕す五色の垂れ幕、終に此処は神の宿る聖地となったのだ。そして五万観衆のヨイショの声援のなか横綱曙関の土俵入りとなる。オリピック発祥国ギリシャを先頭に次代を担う子供達と手を携え力士に先導され、アルファベット順に各選手団の入場が続く。この間北は北海道から南は沖縄まで各県を代表する民謡の曲が場内に流れ、しんがりは開催国日本の代表オリスタの入場だ。そして曲は県歌「信濃の国」に替わった。自然を詩い、人物を詩い更には県民を詩ったふる里の歌、一瞬感動のあまり胸がジーンとなる。列島の中心より全国へ更に全世界へこだませよ！私の住む柏市にも、みすずかる信濃会なる長野県人会があり、懇親会でも先ずこの歌を歌わない限り会が始まらないのが常である。私達にとりこの歌は心の拠り処であり又この歌を和唱する時大きな求心力が働き南信もなければ北信もなく、勿論東信も中信も然りだ。

しまれる歌は他に類をみないであろう……そしてしっかりとトーチを握った最終ランナーが力強い足どりで階段を登りつめ、間髪を入れず迫り上がり来る台上に、伊藤みどりその姿を眼の当たりにした時、アツ馬台国の卑弥呼だ！そんな直感が脳裏を走る。聖火の台は薪能などに登場する、かがり火を焚くあの鉄籠を模したものだ。点火の式も終わり、萩原健司の選手宣誓となる。高校球児の宣誓とはこと異なり何の力みもなく自然体で観衆に感銘を与えた。フィナーレの小沢征爾指揮による歓喜の歌は全世界にこだました。そして各種競技へと繋がる。よりスピーディに、より華麗に、年を経る毎にその技は研ぎ澄まされた高度なものを要求される、テレビ解説者が報じていた、強い者が勝つのではなく勝った者が強いのだ、宜なるかである。

その言葉の裏には諸々の意味が含まれている。競技の結果をみれば自ずと顕れかだ。期待されながら不本意な成績に屈辱感を味わった者、運まで味方に呼び込んで勝利の美酒に酔った者、これらを眼のあたりにする時、如何に世界の頂点に立つことが至難の技であるか理解できる。競技中は結構雨あり吹雪ありで、悪天候のなかでも競技は続行され屋外競技の選手には辛いものがあつたことだろう。こうした中庄巻はなんと言っても団体ジャンプだ。全国民を興奮の坩堝に巻き込み、その逆転劇は大きな喝采と歓喜と連帯感を我々に与えて呉れた。こうした中祭典が終わってみれば、冬季オリピックで選手団が獲得したメダルの数は我が国としても史上最多であつたとか、選手団に心から、おめでとう、ご苦勞様の言葉を贈りたい。今世紀を飾る冬の祭典、民族の祭典は五輪旗と共に来世紀の開催国アメリカへと引き継がれ、別れを惜しむ幾多の画面を写しフィナーレは我が信州が育んだ童謡「故郷」の大合唱と共に聖火の炎は断たれた。斯くして十六日に亘るドラマは幕を閉じた、振り返ってみれば盛り上がりがいまひとつ、そんな前評判の長野オリピックであつたがどうして、どうしてあのすばらしい結果

を見れば、日本人としてふる里が長野に在る者として心から誇らしく思う許りだ。心憎いばかりの演出で黒子に徹したドラマの発信をサポートされた、地元長野の皆様には心からの謝意を贈りたいと思います。

北の工作船

石谷彰治

(下横道出身)



9月はじめのある日、所用で上京したおり、昨年9月南西沖で引き揚げられた不審工作船の展示場を尋ねる機会を得た。

場所は、東京お台場の「船の科学館」である。当日は、休日明けの月曜日にも拘わらず見物客は、五百米にも及ぶ長蛇の列をなし、展示場までおよそ二時間待ちと、人々の関心の深さをうかがわせた。工作船は、二百六十日あま

り海中に没していたので、かなり腐食は進んでいたが、デッキ部分は、自爆のおりに吹き飛んでいたものの船体はほぼ原型を留めていた。

船首と船尾には、海上保安庁の警備艇による銃弾痕が集中的に命中しており、当日の激しい銃撃戦を垣間見る思いがした。

船内の遺留品は、別会場に展示されていたが、夥しい武器は別にして通信機器をはじめとして、その殆どが日本製である事に驚かされた。

自爆した乗組員は十名、麻薬運搬の任務に就いていたと見られ、四〇才代と見られる一人を除いて、みな二十代の若者達だったと推定されるという。国家民族のために、一身を捧げたと信じていたに違いない彼らの心情を思うと、いっそ不憫に想えてならなかった。

作家であり、敬虔なクリスチャンでもある曾野綾子さんが、同じような思いを記して、百合の花束を捧げてあった。それにしても、彼の国の無法ぶりには、日本国民として、激しい憤りを覚えるのは、私ばかりでは無いだろう。

国家民族のためという美名に隠れて、ほんの一握りの指

導者の体制維持と快楽のために、若い命を犠牲にし、ましてや他国へ麻薬を国家事業として、不法に持ち込むなどの無法は、決して国際社会から許されるものではない。

無惨な沈没船を目の辺りにして、一層そのおもいを募らせつつ、憂鬱な気分、帰りの新幹線に乗車した。

(定年退職後上田市在住)

私の仕事

川上年美

(菅平出身)



私 友人より奨められ介護という仕事を今年五月より始めました。私自身が介護される様になるのでは、と思いつながら今のところやらせていただいております。

八月初めに自分の腰をいためて、今はベルトをしながら仕事をしているしだいですが、自でもとても為になります。

分が老いた時は子供達に迷惑をかけないよう、今から介護の大変さを自分にいきかせる為に、働いているようなものです。

介護の仕事をするようになってから、道を老人が歩いているととても気になるようになり、一人で信号だいじようぶかな、なんて気になります。

この訪問介護をやるようになってその大変さが良く分かりました。なんべんもなんべんもおなじ事をいわれ、それに繰り返し繰り返しこたえるのが大変です。でもそんな方ばかりでなく、とても喜んで下さる方も大勢います。

そんなこんなで私も一生懸命働いております。

坂口 豪さんの

おたより

(十林寺出身)

拝啓

山口様、長いことご無沙汰をして仕舞ひました。

私こと、もう三年も土を踏んだことがありません。真田町の会にも欠席をして仕舞ひました。近々の会にも到底お目にかかれませんので、去る日会長さん宅に電話で欠席を

申し上げておきました。会費は、振替番号がわかりませんので、同封しますから、よろしくお願ひ致します。違反して済みません。

人生は年には到底勝てません。来る年々々々を待つ頃が一番幸せと云えませう。私九十を越えまして、会の中で最年長でせうか。幼少の頃の友、戦友、色々な睦会、あらゆる友は皆他界にと、現真田町に訪れても友と云う者を探すのも困難と云う様な事になって仕舞ひましたが、永遠なる故郷は心の中に生きています。

真田町育ちである。在りし日の思ひが心に残る。真田町の会に於いても懐かしい顔と顔。毎年楽しみに待ち兼ねたあのひととき、忘れ得ぬ会を、ほんとに残念であります。どうぞよろしくお願ひ致します。

心の深部に刻む、吾が故郷は心の中に生きる。

誠に失礼の段おゆるし下さい。奥様に宜しく。

六月二十九日

山口様

坂口 豪

(かな使い原文のまま)



真田町の発展に背負う責務

真田町議会議員 若林 幸正



第十六回東京真田町の会総会が盛会に開催されましたこと、まずもってお祝いとお慶び申し上げる次第です。

私は議員として「東京真田町の会」総会に初めて参加させていただきました。会員の皆さんと親しく会話し、真田町の現状と将来について、故郷を後にして都会に出られた当時の（喜怒哀楽）をおききし、楽しい一日をすごすことが出来ました。

なかでも今全国的に話題になっている、市町村合併については、皆さんの故郷に寄せる熱い思いから今後の動向について、大変な関心を持っておられました。故郷をはなれ二代、三代の人達もおられますが、大半は戦後から現在までの会員が多く市町村の合併については、それぞれの年代で考えが違います。しかし故郷を思う心は皆同じです。

時代の変遷とともに故郷の行政組織も大きく変わりました。明治の合併（長、傍陽、本原村の誕生）昭和の合併（真田町の誕生）そして今平成の大合併が目の前にあります。

真田町も任意合併協議会に参加し現在協議中であり、町では広報さなだ、任意合併協議会日より、講演会、各区懇談会を開催し住民の意識の向上に努めております。真田町議会も「合併特別協議会委員」を設置して、任意合併協議会と平行に各課題に対応し議論と協議を進めております。

合併に対する住民の意見をおききし、団体の調査、町の意向調査（アンケート）等を尊重し将来に「禍根」をのこさない、豊かで、明るく、住みよい地域づくりと発展の道を開くのが議会の責務と「東京真田町の会」総会の席で更なる使命を感じた次第です。最後に東京真田町の会の益々の御発展と皆様方の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。



町民として未熟者ですがどうぞ宜敷く

真田町民生委員協議会長 松尾 功



認知を賜るべく「自己紹介」をさせていただきます。

親父（春重）は元真田駅前「松屋旅館」の惣領として生まれ育つも弟君（齊一郎）に家督を頼み職業軍人として陸士へ進み、小生は6人兄弟の末子次男として東京で生まれ、京城（現韓国ソウル）育ちも終戦で父親の里へ引き揚げ上田中学へ二年間通学、父復員も東京で働くため家族真田を離れ川口に半世紀近く居住し青春時代の思い出多き真田に戻って参りました。

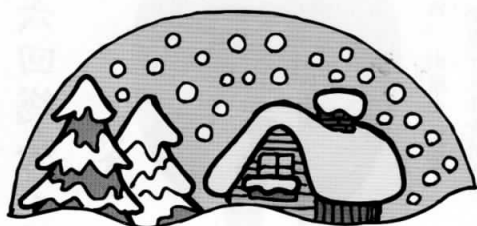
現在は戦国武将真田氏の菩提寺「長谷寺」の駐車場の真ん前で、長谷寺様駐車場の私設下足番（？）を務めて居ります。シルバー族となり生き甲斐作りにと、ご縁から何も分らない乍、傍陽にて美味しいリング作りに勤しんでいます。イタイン族として地元町民の方々とのハンデを少しでも解消すべく、由緒ある郷土史の勉強に20数年の伝統のある「真田町郷土史研究会」に入会し先輩諸氏の薫陶を頂き今は事務局を務め、また生涯学習を目指し老人大学から指導者養成講座課程を習得、

上小地域では唯一の真田町居住の老卒業生による「老人大学真田町同窓会」（会員90名）の会長も務め、永年事務屋として培った技能を駆使し役立たせております。

厚生労働大臣より委嘱される「民生児童委員」の使命は、町民が安心した生活感を涵養出来る福祉増進のための縁の下力持ち的地味なボランティア活動ですが、「揺り籠から墓場まで」ととても範囲が広く、なかなか細かに行き届かぬジレンマと無力さの悲哀に悩む中で皆最善を尽くして頑張っております。

真田町では30名の民生児童委員が町内36区を担当し目的遂行のために精進してありますが、特に真田町では、高齢化対策として「健康度日本一」を目指し高齢者の張り合いある生活感を涵養するため「いきいきサロン」活動を毎月の様に各区毎に展開致し、とかく閉じ籠もりがちになる高齢者が楽しく張り合いある生活感と生き甲斐作りの活動とその成果には、各地から注目の的となつて居ります。

この度の第16回総会には上田中から長野工専（現信大）を出て自衛隊で武器のスペシャリストとして叙勲を受けた東京真田町会員の兄と一緒に初めて参加させて頂きました



が、素晴らしい会員皆様方の和気藹々とした雰囲気の中に故郷から離れた地に於いて「真田町」の良さを誇りと自慢に満ち溢れた思いを糧に、各界にて懸命に精進されている気迫に心から感銘と敬服の念を胸一杯に受けた次第です。

我々町民として「東京真田町の会」の会員各位が「故郷真田町」に寄せる熱い思いの誇りと期待に応えられる素晴らしい真田町へ、及ばずながら尚一層の努力を傾注すべく意を新たに致しましたので、皆様方の倍旧のご指導ご鞭撻を賜ります様切にお願い申し上げます。

結びにあたり「東京真田町の会」の益々のご発展と、会員皆様のご健勝とご多幸を信州の地よりご祈念申し上げます。

東京真田町の会に入会して

副会長 中島正江

(戸沢出身)



私が東京真田町の会に入会したきっかけは、姉の(安田節美)にすすめられて、池之端文化センターに行ったのが始めでした。

当初は総会も終りまで椅子のない立ちっぱなしで疲れきったのが感想でした。その後は会場も変わりましたが、今はアルカディア市ヶ谷、最後までゆったりして良いのではないのでしょうか。

小林初代会長、三井前会長、清水清晴様達が頑張ってお陰で今日があると思います。感謝しております。

私は途中より役員にと云う事で今でも楽しく過ごさせて頂いております。

世田谷、玉川スポーツ少年団に子供がサッカー部に入りそれをお手伝いしている内に少年サッカー連盟を設立し、2代目会長として4年間後に

会計等もやり約15年間サッカーづけでした。

菅平へも子供達を連れて何度か合宿に行きました。真田町の子供達が東京へ来られた折には宿泊一緒にし交流戦も行いましたし、子供どうし仲良くなり別れを惜しんで又会いましよと云う事で今度は真田町の子供達と旧校舎の真田中学校のグラウンドで交流戦をしました折、真田町の父兄の応援の言葉「おいだれ、めためた、とべや」とべ、とべー」と玉川の子供達意味が分からず私に聞きましたので私は皆んな一生懸命走れ、走れってことだよと説明しました。この言葉を思い出したのは今年の総会の折、柳沢喜三郎様が田舎で使われている言葉を沢山書いて下さったのでとてもなつかしく思い今ふっと思い出しました。

生まれ育った所の言葉は普段使っていないくてもその時になればすぐ出てくるものだなあーと、つくづく思い田舎の風景が思い出されます。

その時の校舎も今は近代的に設備され子供達もののびのび学んでいる事と思います。

私の今一番うれしい事は役員になったお陰で町の広報紙が毎月送られて来ます。届くと同時に何をさておいても隅から隅まで繰り返し読み町の出来事を東京に居ながらにして知る事が出来、とても楽しみです。

昔ながらの行事や、各区ごとに競って花づくりコンクール有り、かしコンクール、スポーツ大会等々たまには知り合いの顔や名前が記事に出たりしていると、又町の人々の活躍がうれしくなる事もあり、広報もすばらしい内容の特集を組まれたりで、県で何度となく表彰されているようです。期待しております。

今頃は、東京からの高校生達が、田植く稲刈をしに町へ行っているようですが、私達役員も一度やってみたいと思いましたが、たぶん足、腰がダメになるからなあーと実現しそうにありません。

これからの真田町は合併問題があり大変な年になりそうですね。真田町の名前が消えてしまふと淋しいような気がします。皆さんで協力をしてよりよい町になって行く事を

願っております。

又私達東京真田町の会も益々頑張つてよりよい会になるように役員一同努めさせて頂き、又会員の皆様にも総会等に出席して大変よかったですと思われるようにして行きたいと思っております。

会員募集もしております。お知り合いの方々がおりましたらぜひご紹介下さい。お待ちしております。

東京真田町の会では「ホームページ」を開設しています。

URLは<http://www4.ocn.ne.jp/~soehi/index.html>です。

又ふるさと真田町のホームページからもリンクされています。こちらのURLは <http://www.town.sanada.nagano.jp/>です。

真田町のホームページを開き、右側の上の方にある「リンクのページ」をクリックし、東京真田町の会ホームページへをクリックするとHPがオープンできます。お暇な折にアクセスして、ふるさと真田町と、東京真田町の会のHPを訪れてみてください。

第十六回総会・懇親会のご報告

副会長・事務局長 山口元彦

(横沢出身)



一 開催日、出席者数等

【開催日】平成十五年七月六日

【場所】アルカディアア市ヶ谷

富士の間

【出席数】会員一百四名、真田町から二十一名

二 総会の部

【式次第】

① 「信濃の国」斉唱

② 会長及び真田町長の挨拶

③ 平成十四年度会務報告、会計報告及び監査報告の承認

④ 平成十五年事業計画及び予算の決定

⑤ 懇親会

贈呈

町から三井前会長に感謝状

【塩沢会長の挨拶概要】

町の方では合併の話が進んでいます。出身者としては「真田町」という名前がのこるのかどうか気になります。

(イラクへの自衛隊派遣問題などに触れ) 戦争は絶対にや

つてはいけない、町が平和な中で発展することを願っています。会では親睦をはかるためいろいろな行事を企画しますので、大勢の会員が参加して下さいようお願いいたします。

【箱山町長の挨拶概要】

盛会をお慶び申し上げます。

町では、傍陽小学校の特別教室の建て替え、菅平と長の小学校のトイレの改修、圃場整備などの事業を進めており、また、石舟の「幸村の郷」の「ゆきむら夢工房」では漬物やそば打ちの体験ができますし、隣りに「農林産物直売所」を建設しています。合併に関しては、アンケートを行ったりして町民の意見を聞きながら、ある程度独自に行政を行うことができるよう、分権型合併を目指しています。名前は「〇〇市真田町大字長〇〇」となる予定です。

三 懇親会の部

【三井顧問の歓迎の挨拶】

少子化が問題になっていますが、町の広報によると町の



人口は増加しており、将来は明るいと言っています。町の発展を祈ります。

【佐藤町議会議長の祝辞】

町のことをいろいろな方面から指導していただき感謝します。今日は町のきれいな空気とお国訛りをお土産に持ってきましたので堪能していただきたい。町が発展していることを感じていただけると確信していますが、少子化が問題であり、皆さんの子供や孫が真田町に来てくれるよう協力を願います。

【柳沢喜三郎氏の乾杯の音頭】

町の方々と会員の皆さんが、ご多忙な中に参加してくださったことに感謝し、皆さんの健康をお祈りいたします。

【アトラクション】

三味線・尺八と唄。

演目は、花笠音頭、木曾節、小諸馬子歌、津軽三味線、木曾路の女（踊り）ほか

【ふるさとの方言紹介—柳沢喜三郎氏—】

懐かしい方言を集めて紹介（「日本ダボス十六号」の記字をご参照ください。）

【隠し芸大会】

①中澤盛雄議員の依星玄蕃（せりふ、浪曲入り）—討ち



入り装束、付け髭、采配片手に会場を回りながらの熱演
 ②野村勝太郎会員の「はぐれこきりこ」

③鎌田ちえ子会員の「ノラ」
 ④中島正江副会長の舞踊「雪の最上川」

⑤箱山町長と鈴木邦子理事の「麦畑」——作業衣、もんぺ、麦藁帽子、鍬と鎌を手に熱演
 ⑥鰻沢不二雄議員の「あじさい情話」

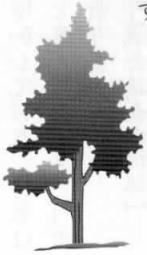
⑦佐藤宏次会員の「北国の春」（八木五郎会員の踊り付き）
 【大団円】「真田郷」の輪踊り、「ふるさと」の斉唱、宮崎副議長と中島副会長の音頭による万歳、堀内福理事の閉会の挨拶。

町からのお土産をいただいで解散。

四 寸評

昨年に比べ、出席者数が増え、隠し芸も飛び入りがあるなど盛会でした。津軽三味線の迫力にも圧倒されました。恒例の輪踊りも板に付いてきた感じでした。話題としては、やはり合併の行方に関心が多かったように思います。

来年も多くの皆様にお目にかかれるよう、心待ちにしております。



狛江古代カップ第13回いかだレース



顧問 清水清晴

(下横道出身)

七月二十日(日曜日)今にも泣き出しそうな曇り空のもと、手づくりいかだに三人ないし五人が乗船し、スピード・アイデアを競う、狛江古代カップ第十三回多摩川いかだレースが、多摩川五本松から二ヶ領宿河原堰までの、約一、三キロメートルで開催された。

今年は友好都市の新潟県川口町、多摩源流のゆかりの小菅町、丹波村からの三チームと、利根川で腕をみがいた群馬県伊勢崎市の「プロジェクト恐竜」などを加えた、過去最高の百チームが参加、十三グループに別れ、関東中央病院いかだ愛好会や東大和市のチャレンジ(ちゃん)等の八隻が午前十時に出発、熱い戦いの火蓋が切られた。いかだは発砲スチロールやペットボトルを上手に組み合わせて作られていた。

狛江市長野県人会も今年で



今年のイカダは七年に一度の善光寺さんのご開帳にちなみ、牛に引かれて善光寺参りと題し、全員の健康と繁栄を願う「ゆつくりモーモー号」

です。大きな牛をかたどり、口より赤い舌を出し、船尾には桃太郎旗で狛江市長野県人会・牛に引かれて善光寺まいりと書き、口を開けて皆にアピールするアイデアは上々でした。

表彰式およびイベント会場は多摩川緑地グラウンドで、会場では「レース優勝タイム予想当クイズ」・「流域対抗優勝チーム予想当クイズ」(受付：八時～十時)、「利き酒コンテスト」(受付：十一時～十二時三十分)などの催しがあり、当県人会も公園の大木の下に応援・慰労会を兼ねた会場を設けて、会員五十余名の参加で盛大に開催された。その時デザイン賞に入賞すると言う情報を得て、午後一時三十分の発表時間まで首を長くして待つ。

午前中と打って変わった快晴となり、炎天下帽子もかぶらず心の中で早く、早くと待つこと三十分余りでいよいよ発表の時刻、ところがなんと結果は、同時に五本松を出発した八十一番「野生号」で、江戸開府四百年に合わせ、昔の蔵や半鐘をデザインしてレース中もプラスチックのパケツを鉄管でたたき、半鐘を鳴らし続けてアピールしていた

イカダ。我が県人会の「モウ、モウ」の声は聞こえなかったのか、入賞を逃がし残念でした。又来年に期待、是非、是非頑張ってください。

森田文子さんの

おたより

(旧姓坂口・下原出身)

節分も過ぎ寒い中にも、梅の花の香りに春近しと感じます。お世話になって居ります。

会員の一人で「日本ダボス」等の発行を毎回楽しみにしております。小中学校の写真等なつかしく見て居ります。

転勤族なので、あちらこちらに一緒して居ます。今は広島

島の「尾道市」に居ります

が、時々家の事をして、夜行バスで行くという様な生活の中、「尾道市」は瀬戸内海を見渡せ、又山があり坂があり、海以外では真田町、特に私の育った本原下原とよく似ており、小学校なども坂の上段にあります。郷愁を感じ、似たような風景に心が癒されます。舟で数分渡りますと、シルクロードなど描かれた平山画

伯の生誕地で立派な美術館が有ったり、有名な作家の小説に風景が出たり、映画にも色々と舞台になったりしています。

以前、真田町訪問で松本万博を見たり、鹿教湯に泊まったり、出席は最初で最後かもしれないませんが、顧問の清水様はじめ沢山のやさしい方々にお世話になり、楽しかった事が思い出されます。

忙しさにまかせ、会費もそろそろかかってしまい申し訳なく思います。更に振替もせず、大変申し訳ございませんが、何年か分として、五千元を同封させていただきますので、お忙しい中、どうかよろしくお願い申し上げます。

日本ダボス一五号の発行にご尽力いただいた武捨様の編集後記や会員の方々の近況報告等、読ませていただいている内、つい拙い文を書いてしまいました。

お体には十分お気をつけて、又、素晴らしい次号にご尽力下さいます様よろしくお願い致します。会の益々の発展をお祈り申し上げます。

広島県尾道市日比崎七の六

日本海事協会社宅

森田 文子

二月十日

若しあの時(運命)



石巻伸夫

(曲尾出身)

ゴルフアーなら誰でも、若しあの時にOBにならなかつたら、若し池ボチャが無かつたら、若しあの時ダブらなかつたら、優勝できたのに、と思う。ゴルフに限らず人生には、誰にも、若しあの時……だったら人生も変わっていただろう、と思うことを経験しているだろう。

私もそんなことを思うことがある。そんな経験を何年も覚えていることから、相当その時はショッキングのことであり、その後その経験から性格も変わったと思われる。

その経験は水に溺れたことだった。まだ小学校へ上がる前だった。近所の8歳年上の体の不自由な人と2人で、夏の終わり頃、川遊びに出かけた。川は大雨の氾濫の後で水は多かった。その川は向こう岸へ渡るための橋があり、直径30センチ位の2本の丸太

を並べ、唐松の厚さ3センチ、長さ2メートルの板を何枚も並べて橋を作った。多分、10メートル以上かとおもわれるが、その橋が洪水のために上流側を下にして、既に太い丸太は水の中にもぐり、上に張った板の一部も水を浴びそこに藻が生えていた。

年上の一緒に居た人は、小さい私がチョコチョコ動き回るのを、其の橋の上で斜めな格好で腰を下ろし眺めていた。私は橋にかかる上流から流れ来る水に当たって緑の藻が生えている所がヌルヌルしているし、冷たい水が足に当たって気持ちが悪くて、足で何回もその感触をたのしんでいた。それが今でもわからないのだが、何かの拍子に滑ってしまい、そのまま流れに吞まれてしまった。滑った瞬間は今も思い出すが橋の下からは、全く意識不明だった。気が付いたのは30メートルほど下流まで流されてからだった。あの時、橋の下丸太と丸太の間の水の中にとまっていたら、多分助からず今は無かつただろう。

こう言うのを、運が良かったと言うのだろうか。その後夏になると水難のことを報道されるが、運が良く助かっている人と運が悪くて亡くなる人を見ると、私は運が良かったんだと実感している。

終戦の翌年大きな台風が来た。私も11歳になっており、川沿いの大水の被害を見て廻った。多分、自分の家の田んぼが心配になったからだろうと思うが、未だ少ない経験の中で、その川始まって以来の洪水と思うし、その後その時ほど大きな洪水も経験していないので、それは大変なものだったと思う。

私が田んぼ道を歩いて行くと、在ったはずの道は既に流れ、川の流れば道を呑み込み奥の桑畑を半分呑み込んでいた。私は桑畑に入り水際から5メートルほど入った所を歩いた。なんと、土の有る畑の下は既に川は流れ土はなく、私の体は腰まで水に呑み込まれてしまい、勢いを増している水はこちらに向かっているではないか。私は手の届く桑の木をとっさに掴んだ。桑は根の長い木です。毎年養蚕のために良い桑を蚕に食わせる

ために根を大事に手入れをしていて、何年も根を使っているために根はしっかりと土の中に張り巡らされているので、其の時、その桑の木につかまり其の根がしっかりしていたために、自力で濁流から這い上がり助かった。

あの時その畑がねぎや大根だったから、私は助からなかった。今でもテレビで大洪水のニュースを見るたびに、水際に立った人に、『水は怖いからもつと下がれ、下がれ』と声を出して呼びかけている。

今でも命を助けてくれた桑の根に感謝をし、若し桑の根が無ければ今の自分が無いと思うと、桑の根があつて運が良かったなど思えてならない。

あれは小学校六年の秋、昭和22年、父の木材会社が木材を伐採した跡へ次兄と副材を薪炭用にする作業へ一緒について行ったときだった。私は次兄の手伝いを少しして、深山の秋で山果が実る頃で、山の作業の人たちが落ちた山果を拾った後ではあったが、良く見ればまだ拾うことが出来た。人夫小屋もあり、その人夫さんからも保存してある栗を頂戴した。

夕方になると、昼間は太い用材を運んでいるトラックが

最終便は新にした櫓や雑木の束を積み其の上に深山で働く人たちを乗せて帰る便となった。村まで10キロほどの道のりなので、薪を満載した其の上に10数人の人たちが乗って家路についていた。

当時はガソリンが無く、薪を小さく切つて火にくべ、その火力でエンジンを動かしている時代で、自動車も少なく、運転者も無免許者が多かった。その時も無免許の運転士が車を運転してきた。薪を積みきつたとき、山小屋の人夫から運転士は栗を振舞われた。その栗を食べながら片手運転の鼻歌交じりの走行だった。

私は積荷の薪に腰をかけ、運転台の屋根に足を置くと、ちやうどベンチに腰掛け、車の走る方向を眺めながら乗ることが出来、とても良い席であった。全員薪の上に乗る終ると車は発車した。車はゆつくりと下り坂の山道を、里に向かつて走り始めた。そこは雨が降るたび土砂が流され、大きな石、小さな石が林道にごろごろ露出しており、右に左にとゆつくりと走らなければならない山あいの道だった。2キロほど走ったとき右側は山で左側が10メートル程下を川が流れている崖の上を走

つていた。道は石も無くなり、くんだり道なのでスピードも速くなった。ところが後ろの人の、曲がらない！と大きな声は聞こえたが、気が付いたら私はひっくり返った車の運転台の脇に立っていた。トラックスは右に90度も曲がる道を、まっすぐ川原のほうの10メートルも有る崖に転げ落ちたのだった。幸いに崖の途中に20センチ程の植の木が生えていた。その一本の植の木に

かろうじてその車は寄りかかり、車輪は真上に4つつさり、荷物の薪は荷台を離れ、どっさり川原に弁当箱を裏返しにし、中身が下に落ちたように散らばっていた。兄も一緒だったが薪の下で気絶していたようだが生きて救出され、こんな事故でも1人が入院しただけで他は全員無事だった。助かった私は子供であり山の中でもあるし、救いがくるまで時間がかかるから『歩けば歩いて帰れ』といわれ、兄と2人で歩いて帰途についてた。途中救援の人たちが山へ何人も上がって行ったが、それを見過ぎ、途中休み休み、本当に100メートル歩いては休みながら家に着いた。両親は心配げに2人を迎え、『よかった、よかった、早く

休め』と床をしき、大事にしてくれた。兄はよく調べたら、頭に大怪我をしていたが、私は全く傷が無かった。

この経験後は車に乗ることが怖くなり、車がカーブに来ると曲がれないのではないかと不安につきまとわれた。

あの時、落ちる車が1本の植の木に支えられ、止まらなかったら、黄泉の人だろう。あの1本の植の木が自分の命を救ってくれたんだろうと思う。『若しあの植の木が無かったら』68歳の今の自分はないと思われてならない。

この様に、小さい時に『若しあの時……だったら、今の自分は無かっただろう』ということを経験した為、命を左右するようなことが、脳裏にこびりついていっているせいか、命について人一倍神経質になったのだと思う。兄弟のうちでも他の兄弟と違って、屋根から飛び降りたり、ターザンの真似をしたり、千古の滝つぼに飛び降りたり、細い丸太橋を渡ったりはせず、又海や川で自分の首まで以上の深みには一度も入ったことが無い。

今までは用心もしたり、無理をしなかったのも、命を永らえてきたが、この歳まで生きたら、これから後はなにがおきるかわからない。天命に沿って生きていくより仕様が無いだろう。何か有ればこれからの運命だろうと思うことにする。

ただ妻と子供には、もしものときでも、よい天命を祈りたい。

会員の皆様の

近況報告抜粋

(出身区・旧姓)

奇藤静江(横尾・青木)

今年には会長さんと言う大役ご苦労様です。出席出来ないのが残念です。

飯嶋徳麿・はる江(中組・小林)

元気で頑張っています。今後ともよろしく願います。

石巻伸夫・千恵子(曲尾)

同日は山形県に団体旅行に2人は出ており欠席とさせていただきます。先日のゴルフ会では車にのせていただきありがとうございました。御礼申し上げます。

小坂井やえ子(曲尾・石巻)

故郷に帰った様な、そんな気持ちでいつも参加させて戴きました。真田会の御発展を心より祈り致します。

清水民子(曲尾・上原)

総会の役員の方々、いつもお世話に成っております。4月に43年間共に暮らした義母に逝かれ淋しい思いをして居りましたところ、真田町の会のお知らせをいただきまして、皆々様にお目にかかれれば又、気分も変わるかと存じます。よろしくお願い致します。

堀籠道子(中横道・上原)

日程が出席出来るかどうか予定がたらず遅れてしまいました。よろしく願います。

柳橋米子(下横道・内川)

いろいろとお世話様になっております。懐かしい方々にお会いできること楽しみにしております。よろしく

藤井やすい(下横道・内川)

いつもごくろう様です。今回は申し訳ありませんが欠席にします。

内海章緒(大庭)

一生懸命仕事をしています。

内海卯市(大庭)

腰痛のため出席出来ません。

内海辰三(大庭)

昨年健康を害し脊椎の手術を致しました。少しづつ回復しておりますが、未だ会合に出席できるまでに至りませんので欠席させていただきます。

宮本四方子(大日向・大久保)

名前の文字がいつも違っています。誤：四万子 ↓ 正：四方子(大変失礼いたしました。事務局)

ました。事務局)

大久保治夫 家族旅行のため欠席します。

御盛會を祈念致します。(返事が遅れ申し訳ありません)

大庭今朝女(大日向・大久保)

60代は駆け足で去って行きました。古希に手が届きますが健康に恵まれ年相応に日々を送っています。

荻原活美(穴沢)

妻陽子は5、6年前に退会したと思います。確認願います。仕事上都合がつかず残念ですが欠席致します。

荻原 浩(穴沢)

会員名簿の住所番号が違います。3-23-33なのでよろしく願います。

荻原 学(真田)

現役を離れて10年余り、静かな生活をしております。墓参も2年に一度位帰省しております。

岩井泰子(中原・荻原)

御無沙汰して居ります。新しい会員名簿を同封していただき有りがとうございました。

名簿をめくりながら懐かしい方々の顔と顔、そして風景を思いながらしばしふる里を懐かしんだ次第です。欠席しますが第16回総会が盛會に行われます事を念じて居ります。

尾崎仲治(真田)

毎日元気で過ごして居ます。

海瀬益男(曲尾)

難病指定の肺炎にかかり病院を退院して3年になります。が、療養に専念しております。

清水なか子(曲尾・海瀬)

いつもお知らせありがとうございます。四月から主人が入院しておりますので今年

は欠席と思っておりますが、昨日近々退院が決まりましたので、お返事が少し遅くなりましたが、出席致しますのでよろしく願致します。

小島君子(萩・金井)

名簿を拝見してなつかしい名前ばかりです。出席したい気持ちで一杯ですが、私は現在体調が悪く(間質性肺炎)、空気が悪いとせきがひどく、人様の前で迷惑をかけますので欠席します。よろしく願致します。

紺野敏子(横尾・神田)

会員名簿を有り難うございました。亡き父母が遺してくれた目に見えないハートの財産をしみじみとありがたく思う今日此頃です。YMCAで幼児教育の仕事をしております。

布施京子(真田・木島)

元気でやっております。

木島豊禧(真田)

健康がすぐれないので失礼します。

野間亮子(横尾・北沢)

ステキな会員名簿ありがとうございます。

うございます。住所が上記に変わりましたのでよろしく願致します。

今回も申し訳ございませんが、多忙につき欠席です。皆様の御多幸をお祈り致します。

久保新一(角間)

返事が遅れて申し訳ありません。長村が真田町になり、上田市になる。故郷がだんだん消えて無くなるように思います。ご盛会を祈ります。

広川雅子(横沢・久保)

出席の連絡が遅くなつてすみません。

倉島今朝二(角間)

楽しみにしています。

倉島保男(角間)

投函が遅れました、お許し下さい。役員諸子のお働き厚く感謝致して居ります。今後共、会発展の為の御盡力をお願い申し上げます。

来る7月6日の総会は体調不具合の為欠席させて頂き

ます。ご成功をお祈り申し上げます。

倉島安三(角間)

いつも御無沙汰しております。今回もひざ関節の具合が悪い為に欠席させて頂きます。

秋葉昭雄(八軽井沢・小林)

新住所 千葉県野田市木間ヶ瀬3783-2

小林重利(八軽井沢) 元気でござしております。当日は高校の同窓会の集まり

があり、欠席させて頂きます。

小林孝雄(曲尾)

本日はお電話有難う御座いました。ハガキが封筒の中に入っていることに気付かず、失礼しました。

ご苦労が多いことと存じますが、ご健闘を祈ります。

倉持信郎(八軽井沢・小林)

5月23日、24日菅平高原ホテル桑田館にて二七会の同窓会があり出席致しました。

30名、中学卒業後51年ぶりの友人も数名おり大変に楽しくすごす事が出来ました。

岡村貞江(中組・斎藤)

うっとうしい梅雨の季節も間近です。役員の皆様何時もお世話様でございます。昨年の総会には出席し大変楽しく過ごせていただきましたが、今年は都合で出席できませ

梅山良江(中組・斎藤)

ん。皆様によりしくお伝え下さいませ。

坂口武久(下原)

大変おくれましたが宜敷お願い致します。

森田文子(下原・坂口)

62才、退職して家に居ます。御世話になります。現在は転勤の夫と共に広島県尾道市に在住です。月一回市原に帰る、あわただしくも楽しい生活をしています。

小林公江(大日向・塩沢)

いつも大変お世話になります。

す。楽しみに出席させて頂きますのでよろしく願致します。

香坂つや子(大日向・塩沢)

御無沙汰しております。今は会社を定年し二人で楽しい日々を過ごしております。熊谷からだ長野は近く二時間ほどで行けます。いつか出席する時は宜しく願致します。

志野米子(大日向)

毎年お便りを頂いておりますが、色々用事が出来たりしてなかなか出席する事が出来ませんでした。やっと体の調子も良くなったので今年こそ出席させて頂きます。

清水清晴(中横道)

お世話様です。親睦旅行会も良いがふるさと訪問をすべきだと思ひます。創立は真田町との交流と発展の寄与のことであつたから、去年のようでしたら、やめた方が良く

山口久子(曲尾・清水)

と思います。町からだれも来ないから？

お世話になります。

総会出席できませんが、会費千円の振込み用紙はこれから来るのでしうか。

清水萬三郎(上原)

皆様の御多幸をお祈り致します。

杉崎壽三男(菅平)

いつもごくろう様です。いまの処当日は都合は好いので

是非出席したいと楽しみにしています。

関義一(八軽井沢)

病氣回復に専念中です。

鈴木民子(竹室・高寺)

総会、懇親会の準備ご苦労様です。毎年どんな方にお会い出来るか、楽しみに出席させていたで居ります。今年も楽しみにして居ります。

川田知恵子(竹室・高寺)

御苦労様でございます。少し体調悪くして居りますので残念ですが欠席いたします。

鳴沢功次(中組)

元気でやっております。次回23年生まれの方お集まり下さい。

山本道子(大庭・成沢)

昨年は都合が出来なくて出席しませんでした。今年は楽しみにして居ります。

井出道子(下原・南條)

今年はお出しようと思いましたが、義弟の周忌と重なってしまい本当に残念です。盛会をお祈り致します。

山口末子(穴沢・西牧)

旅行のため欠席させていただきます。

野村勝太郎(大日向)

役員の皆様御苦勞様です。いつも御世話になって居ます。ありがとうございます。今回も宜しく願います。

橋詰章(横尾)

足、腰不自由になり欠席します。

橋詰吉万雄(中組)

役員の皆様にはいつも御世話様です。ふるさとを同じくする人達の集まりは毎年楽しみにしております。当会のホームページが5月6日に更新されました。併せて楽しみにしております。

橋詰照雄(中組)

幹事様ご苦勞様です。住所の誤りを今頃気がついたので訂正願います。羽村市羽西3

4・6です。

橋詰雄治(中組)

投函遅れましたが宜しくお願います。

半田敬一(中横道)

何時のまにか70才1歩手前ですが元気で。同郷の人達と逢うのが楽しみです。

半田幸一(田中)

3月頃から腰部からの脚痛で特に5月にひどく入院2週間、目下毎日の通院、様子を見て是非出席したく御連絡をのばしていただのですが、やはり未だ無理の状態で残念ながら欠席させて頂きたく、宜しくお願ひ申し上げます。会とは堀内寅次兄にお願ひしました。

御盛会を祈ります。

半田武男(三島平)

所用にて欠席いたします。

滝沢富志子(下横道・半田)

御盛会を御祈念申し上げます。元気に過ごしております。

真田市になったらしいですね

半田幸弘(中横道)

急用発生して残念ですが欠席します。

石井栄津子(横尾・樋口)

遅くなり申し訳ございません。

勝田昭子(田中・堀内)

出席できないことが残念です。上田に住んでいる弟の娘が結婚する日と重なってしまいました。役員の皆様いろいろ

ろとご苦勞様です。

堀内いまよ(下横道)

腰痛のため欠席します。

木南和世(中横道・堀内)

皆々様にお会いできることを楽しみにしております。

井上かつよ(田中・堀内)

初夏の風と共に若葉の薫りた。今日役員の皆様御苦勞様です。お世話になります。伊関環(上横道・堀内)美容室経営中、皆様による

所けさい(中横道・堀内)

ふるさとを離れて40年余。信濃の国を共に歌う仲間が大勢出来ました。

堀井けさ子(田中・堀内)

いつもお世話になっております。変わりなくしております。今後とも宜しくお願ひ致します。

堀内耕吾(下横道)

先日帰省した折、丁度上洗馬神社の春祭りでした。夜境内での獅子舞を40数年振に見物する事が出来ました。今以て継承しておられる皆さんに感謝すると共に郷愁を深く感じた1日でした。

堀内茂雄(中横道)

幹事御苦勞様です。

堀内照美(上横道)

葛飾支部にて郷土訪問旅行7/6・7日(天竜舟下り付)

松尾昭(真田)

74才を越えましたが健康の方は問題はありません。今後様子を見て出来るだけ出席する積りです。

岩崎みち子(菅平・正木)

理事会も出席できず申し訳ありません。当日は参加いたしました。

7/6・7日(天竜舟下り付)

が予定されている為欠席させていただきます。

堀内寅次(中横道)

いつもご連絡ありがとうございます。同級生をさそって出席します。よろしくお願ひ申し上げます。

堀内壽美(上横道)

宜しくお願ひします。

堀内保男・ふじ江(萩・中組・飯島)

老化ですが元気で。

山本美江(下横道・堀内)

いつもお世話に成りありがとうございます。今年も元気で出席出来るように、又なつかしい皆さまにお会い出来ますよう祈っております。

堀内良幸(中横道)

申し込み遅れてすみません。よろしくお願ひします。

桃井俊江(戸沢・牧内)

“しらかば通信”日本ダボス”楽しく拝見しています。

牧内正志(戸沢)

この2月満80才となりました。元気で。

岩崎みち子(菅平・正木)

理事会も出席できず申し訳ありません。当日は参加いたしました。

松尾昭(真田)

74才を越えましたが健康の方は問題はありません。今後様子を見て出来るだけ出席する積りです。

岩崎みち子(菅平・正木)

理事会も出席できず申し訳ありません。当日は参加いたしました。

松尾昭(真田)

74才を越えましたが健康の方は問題はありません。今後様子を見て出来るだけ出席する積りです。

松沢信(大日向)

ゴルフ大好き人間です。機会がございましたらコンペ等参加させて頂きたいと思っております。

三井毅(大庭)

毎年3・4回は帰省しております。五月には兄弟夫婦で菅平に一泊して来ましたが、欠席ですみません。ご盛会をお祈りしております。ご出席の皆様によりしくお伝え下さい。

宮崎斌司(中原)

郵便番号・住所地名がわかりました。宜敷く。

宮崎十人重(菅平)

遅くなりまして大変申し訳ありません。今回は残念ながら都合により出席出来ません。

壬生とりよ(戸沢・宮島)

いつも御連絡ありがとうございます。故郷を離れて40年、昔の知ってられる方々とお逢い出来ればいいなあと願っております。

吉川栄子(中組・武捨)

元気で暮らしています。

武捨衛人(中組)

パソコン、ゴルフのクラブ活動やカラオケ、旅行などで余生を元気で楽しんでいきます。お手伝いしている東京真田町の会の総会の盛会を祈ります。

森本幹生(八軒井沢)

3月水墨、5月油絵の団体展、4月にコンクール、百号

松尾昭(真田)

74才を越えましたが健康の方は問題はありません。今後様子を見て出来るだけ出席する積りです。

岩崎みち子(菅平・正木)

理事会も出席できず申し訳ありません。当日は参加いたしました。

松尾昭(真田)

74才を越えましたが健康の方は問題はありません。今後様子を見て出来るだけ出席する積りです。

7/6・7日(天竜舟下り付)

3枚描きました、尚コンクールは入選しました。盛会でありますように 敬具
八木五郎(中横道)

汗流して働けることに感謝です。

柳沢喜三郎(萩)

長野県「唱歌と童謡を愛する会」連合会の皆さん120名が御殿場に来て御殿場市、小山町の県人会との懇親会があり盛大に「信濃の国」を歌いました。

柳沢 俊美(戸沢)

当日津郷が悪く欠席致します。皆様によりしく伝えて下さい。

宮田マキエ(戸沢・柳沢)

体調をくずしており欠席します。しらかば通信ともなつかしく、ふる里の味をありがとございます。会費納入をお知らせ下さい。

柳沢 實(萩)

何時もお世話です。私は柏市地区の長野県人会、古代史を学ぶサークル等活動を楽しんで居ります。

柳沢保治(真田)

会長ご苦勞様です。会員名簿は立派なものが出来ましたね。

柳沢義祝(萩)

ご盛会を祈ります。

北沢りん(上横道・柳沢)

はじめて出席させて頂きます。月日の過ぎ行くのは早い

ものですね。結婚して五十年になります。秋には子供や孫達とささやかな祝事をしたいと考えています。

椎名己津男(横沢・山口)

私事で遅れて申し訳ありません。よろしくお願いいたします。

山浦教代(下塚)

この度引越しました。よろしくお願いいたします。

堀内トミ子(横尾・山崎)

振込用紙が入っておりませんでした。御手数でもお送り下さい。

山宮敏男(入軽井沢)

いつもお世話さまです。総会を楽しみにしております。ご盛会を心よりお祈り申し上げます。

浅水みち子(入軽井沢・山宮)

週一度(都内) 10km〜20kmを歩いています。

安田美智子(入軽井沢・山宮)

初めての出席です。楽しみにしています。ヨロシク！

横沢義雄(大畑)

最近いかに、小学校、高校の同級会、ゴルフに年3〜4回は出かけています。

若林 豊(赤井)

66才の老体に「ムチ」打って仕事にがんばって居ます。当日は都合がつかせないので申し訳御座いせんが欠席させていただきます。

次回総会のお知らせ

平成16年の総会、懇親会は7月11日(日)、アルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催します。今から予定に入れておいて下さい。詳しくは5月に発行の「しらかば通信」8号でお知らせします。

年会費納入の御願い

総会に欠席の方で平成15年度の年会費千円を未納の方は同封の郵便振替用紙にてお振込み下さい。振込料は無料です。よろしくお願い致します。

広告 御礼

日本ダボス16号の発行にあたり広告をお願い致しましたところ、大勢の皆様のご協力を頂きました。大変有難く、厚く御礼申し上げます。

ご芳志 御礼

左記の方々からご芳志を頂戴致しました。大変有難く、深く御礼申し上げます。

小林 公江様 五千元
飯嶋 義道様 一万円

ミトコンドリア様・葉緑体様、本当にお世話になっ
ています…生命体は持ちつ持たれつ…

理事 武捨衛人 (中組出身)



間もなく古希を迎える歳になり思い出に浸る時間が増えました。そして半世紀前の紅顔の美少年…異議多数あり…の頃に、傍陽中学新聞に小生意気にも「科学随想「雪と岩石」」なる一文を投稿したことを思い出しました。

雀百まで踊りを忘れずと申しますが、あれから科学・技術に関わって半世紀、リタイアし余暇を得た現在は放送大学の講義をテレビで見たり、図書館を利用したりして最近の宇宙論や生物進化論が明かす自然の壮大なドラマに胸躍らせています。そこで「門前の小僧習わぬ経を誦む」ではありませんが半世紀ぶりに科学随想の第二弾として、標題のテーマについて少し触れてみたいと思います。

ずっと昔、今から約四十六億年前に太陽系と共に地球が誕生し、それから十億年程遅れて地球上に生命体が出現したと言われています。その頃の地球は生命体にとって厳しい環境にありました。空気は酸素に乏しく、地上には有害な紫外線がまともに降り注ぎ、当時の原始的な生命体は深海の底で紫外線を避け、効率の悪い嫌気性呼吸に頼ってひっそりと生きていたようです。

今の葉緑体の先祖にあたるシアノバクテリアの仲間が、光合成によって太陽の光エネルギーと炭酸ガスから有機物と酸素を作り出し、生命体のエネルギー源を蓄えると共に、より効率的な酸素呼吸をする好気性生命体の生活環境を整えて行ったと言われています。更に酸素の一部はオゾンとなって有害な紫外線の地表への到達を遮り、生命体の陸上への進出を促したと考えられています。

このシアノバクテリアの仲間が、遅れて出現した真核

生命体に共生して今日の植物の祖先となり、三十億年にわたって光合成によって大半の生命体の栄養源となる有機物と酸素を賄い続けていると言われています。

話は一転しますが、地球の大半の生命体：酸素呼吸をする好気性生命体：はすべて、ミトコンドリアと呼ぶ聞き慣れない細胞内の共生生命体に完全に依存して生きていることが明らかにされています。

即ち、好気性生命体の細胞はATP：PTAではありません！……と云う高エネルギー化合物から得るエネルギーによってのみ生きることが出来るのですが、このATPはミトコンドリアが共生相手の細胞から供給される有機物と酸素をもとにしてTCAサイクルによって作り出しているのです。

このミトコンドリアは30億年も昔に嫌気性原核生命体から進化した真核生命体に共生して、これをより効率的な酸素呼吸をする好気性生命体に発展させ、今日の動植物の先祖を創生したと考えられています。

葉緑体、ミトコンドリアはこの様に共生相手の細胞の小器官として働き、その細胞の

生命を支える代償に自らの衣・食・住を相手の細胞から得ているのです。住は住みついた細胞質、食は細胞が供給する有機物と酸素、衣は細胞質との境界をなす外膜（内膜は自前）です。

しかし、独立して分裂する事、独自のDNA：遺伝子を持つ事などで、わずか六百万年の歴史しか持たない人類よりもずっと先輩の別の生命体の子孫で、その歴史は30億年余に及ぶと考えられています。

ミトコンドリアのDNAは母系遺伝をする：受精卵に共生したミトコンドリア以外は共生相手の細胞と運命を共にしDNAを残せない：上に、長い共生の歴史の中で遺伝子の大半を相手の細胞に譲って小サイズ化しているのでDNAの解析が容易なのです。

例えば現代人は皆わずから十万年ほど前のアフリカの女性の子孫らしいことがミトコンドリアのDNA解析の結果として伝えられています。又白人と黒人はかなり近縁で、わずか二千年程度の期間で変わったらしいと云う事も言われています。

もし葉緑体が存在しなかったら、唯一のエネルギー源である太陽光を利用するすが

無く、酸素も出来ないのも、地球は殆ど死の世界であつたと思われまふ。

また、ミトコンドリアが働かなくなつたら、酸素呼吸をする全ての生命体はエネルギー通貨のATPを入手できなくなり、動物は分のオーダーで死滅し、植物の大半も月のオーダーで枯死するでしょう。

この様に地球上の酸素呼吸をする全ての生命体は等しくミトコンドリアと葉緑体に完全に依存して生きているので、ミトコンドリア様・葉緑体様、いつも本当にお世話になっていきます。心から感謝して謙虚に生きるべきで、夢々、世の中は自分を中心に廻っていて誰の世話にもなっていない、などと傲岸不遜に生きてはならないと思います。

我々人間は体細胞約60兆、共生するミトコンドリアが少なめに見積もっても約一京（ケイ：兆の一万倍）、他の共生、寄生細胞百兆でざっと一京百六十兆の生命体と一連托生の関係にあり、命ある限り、生きつづけるべき責務を負っています。これらの膨大な人生の盟友を道連れにする自殺はとんでもない犯罪行為ですが、我が国では交通事故死の三倍もの自殺者が出ている悲

しい現状にあります。

話が暗くなりましたので最後に金持ちならぬひも持ちの話を紹介して拙文を終えたいと思います。ここに云うひもとは人類が獣時代の先祖からえんえんと受け継ぎ、生涯をかけて子孫に伝えていく遺伝子を構成するDNAのことです。

DNAは二本の分子鎖が対になった螺旋状の基本構造をしていて細胞核に存在するのですが、これが十重二十重に折り畳まれ繊維状・糸状・ロープ状更にその積層体状と高次で緻密な構造をなしていて、解きはぐした長さは細胞一個当たり約2メートルと試算されています。

従って、約60兆個の細胞から成り立っている人間は一人当たりで、自前分だけでも総延長百二十兆メートル、二百億キロメートルのひもを持ちます。ちなみにこの長さはなんと光の速さで四日半日、新幹線のひかりでは五万五千年かかる長さです。なお、日本列島に人類が住みついたのはわずかに三万年前のこととされています。

紙面が尽きました。ご機嫌良く新しい年をお迎え下さいますように。

☆ 新会員ご紹介

の御願い

「東京真田町の会」の現在の会員数は約六百名ですが、更に会の発展を期して新しい会員の募集キャンペーンを行なっております。

会員の皆様のご兄弟、知人、同級生、学校の先輩や後輩で入会されていない方が居られましたら是非ご紹介下さい。

※対象地区は東京、千葉、埼玉、神奈川、茨城、栃木、群馬、静岡、山梨県等関東圏にお住まいの方です。ご家族の方も入会できます。

※年会費は千円です。※年一回の総会・懇親会その他、旅行会、ゴルフ会、マレットゴルフ会等の催しが行われています。

※入会のご連絡、お問合せは次の担当役員までお願いいたします。

塚田 恒雄

047 (175) 0823

柴田 小夜子

03 (3467) 4035

岩崎 みち子

03 (3873) 1594

金子 誠

048 (591) 4728

各部の活動報告

☆親睦旅行会

期日 15年10月11・12日

参加者 男6、女6計12人

コース 初日↓新宿駅…小

田急ロマンスカー…湯河原

温泉着、午前11時。万葉公

園・大瀧等を探索。

横浜・川崎在住の別働隊は

宿泊旅館に直行。

夜の宴会で盛り上がり、

旅の疲れで熟睡中に秋の夜

更けて行き、第一日は終了。

2日目↓宿泊旅館…真鶴半

島観光…レストランでバー

ベークリーの昼食…新宿帰

着16時15分…再会を約し

て解散。



※初参加者が6人おられ賑やかなツアーとなりました。

※佐藤昌江さんの紀行文『小さな旅』—6頁—もご覧

下さい。

担当理事 萩原啓治

☆スポーツ

◎マレットゴルフ

同好会だより

春の大会は総勢14名の参加を得て朝霞マレットゴルフ場に於て6月7日に開催されました。成績は次の通りでした。

優勝…滝沢けさ子(赤井出身)

準優勝 持田みさ子(赤井出身)

三位…武田守央(真田出身)

敬称略



◎ゴルフ同好会だより

期日 15年10月8日

コース ツインレイクカン

トリイ倶楽部・群馬

県藤岡市

参加者 24名、内真田町9名

当日は晴天に恵まれ、和気

藹々のうちに全員が優勝を目

指して元気にスタート。プレ

ー終了後は、肩を落として疲

れた顔で上がってくる人、又

優勝は俺かもと期待して上が

ってくる人ありのいつもの光

景でした。

表彰式、パーティーではプレ

ーの話で盛り上がり、会員同

士や真田町からの参加者との

交流が一層深められました。

入賞者は

優勝…横沢義雄(大畑出身)、

春・秋連続優勝

準優勝 飯島慶三郎(下原出身)

三位…柄沢 衛(真田町助役

の各氏でベスグロ賞はグロス

89の飯島慶三郎氏でした。

女性及び70歳以上の男性

のシニヤは参加者2名で優勝

—三井芳郎氏(大庭出身)、準

優勝—中島正江さん(戸沢出

身)でした。

次回の春季ゴルフ大会は

4月中旬、群馬県内のゴルフ

場で開催予定です。又、真田



町民ゴルフ大会は来々6月最終日曜日、菅平高原ゴルフ場が予定されています。お問い合わせは次の幹事まで。

東京真田町の会ゴルフ同好会

幹事 堀内 福

Tel 042(958) 1578

携帯 03(3315) 5930

Tel 03(3315) 5930

携帯 090(8442) 2317

幹事 萩原啓治

Tel 03(3315) 5930

携帯 090(8442) 2317

～会員消息～

(敬称略)

<新入会員>

岩崎 弘	〒276-0046	千葉県八千代市大和田新田 433	TEL 047-450-2220	(中原)
大野 亨	〒359-1151	埼玉県所沢市若狭 3-2542-23	TEL 042-948-3750	(竹室)
金指 信子 (一之瀬)	〒403-0411	静岡県加茂郡稲取町 162	TEL 0557-95-1500	(大日向)
金子 和子 (一之瀬)	〒182-0023	東京都調布市染地 2-29-8-103	TEL 0424-82-4951	(大日向)
倉島 義明	〒198-0023	東京都青梅市今井 1-194-6	TEL 0428-31-3988	(横沢)
小林 美喜子	〒197-0802	東京都あきる野市草花 2100-64	TEL 042-559-5211	(横尾)
佐藤 公一	〒202-0014	東京都保谷市富士町 1-15-20	TEL 0424-62-6827	(中組)
関 輝雄	〒216-0033	神奈川県川崎市宮前区宮崎 119-5	TEL 044-888-0520	(入軽井沢)
関 辰雄	〒112-0001	東京都文京区白山 4-23-2	TEL 03-3943-7446	(入軽井沢)
高柳 キヌ (栗林)	〒226-0015	神奈川県横浜市緑区三保町	TEL 045-937-3395	(横沢)
谷口 文枝 (北沢)	〒121-0801	東京都足立区東伊興 3-22-10	TEL 03-3855-8116	(横尾)
古田 つな子 (宮下)	〒193-0812	東京都八王子市諏訪町 1922-1	TEL 0426-51-9002	(真田)
望月 正幸	〒273-0852	千葉県船橋市金杉台 1-3-15-301	TEL 047-447-5034	(横沢)
山井 さち子 (望月)	〒136-0072	東京都江東区大島 8-18-19	TEL 03-3682-5755	(横沢)
山井 のり子 (望月)	〒345-0025	埼玉県北葛飾郡杉戸町清池	TEL 0480-33-2074	(横沢)
望月 正幸	〒273-0852	千葉県船橋市金杉台 1-3-15-301	TEL 047-447-5034	(横沢)
横沢 義雄	〒243-0031	神奈川県厚木市戸室 2-19-46	TEL 046-221-5082	(大畑)

<住所変更>

石谷 彰治	〒386-0003	長野県上田市富士見台北 108	TEL 0268-27-0476	(下横道)
小林 孝雄	〒234-0051	神奈川県横浜市港南区日野 4-45-5	TEL 045-843-8041	(曲尾)
小林 光子	〒234-0051	神奈川県横浜市港南区日野 4-45-5	TEL 045-843-8041	(曲尾)
野間 亮子 (北沢)	〒350-0051	埼玉県川越市志多町 19-1-207	TEL 049-226-5971	(横尾)
三井 芳郎	〒386-2203	長野県小県郡真田町傍陽 11510	TEL 0268-73-2616	(大庭)
宮田マキエ (柳沢)	〒369-0301	埼玉県児玉郡上里町金久保 537	TEL 0495-33-3171	(戸沢)
山浦 教代	〒338-0826	埼玉県さいたま市大久保領家 562-4	TEL 048-855-1773	(下塚)
横沢 由明	〒176-0011	東京都練馬区豊玉上 1-17-3-305	TEL 03-3557-6613	(大畑)

<退会> 長い間、会に御協力下さり有難うございました。くれぐれも健康にご留意下さい。

青木 富・浅野 みち・荻原 陽子・切口 明子・久保 次雄・小林 公子・小宮山 五男・外山 かね子・中島 やよい・林 和子・堀内 照雄・松尾 清子・三井 国武・山宮 三治・吉井 きぬよ・若林 功

<逝去> 会員一同、心よりご冥福をお祈り致します。

大久保袈裟義 金子 堀江 小市 忠雄 坂口 国雄 宮島 辰夫

<名簿訂正・変更等>

秋葉 昭雄	市名変更……………→	野田市木間ヶ瀬	石井栄津子	〒訂正……………→	329-0206
井関 環	電話等新掲……………→	旧姓：堀内	TEL: 049-264-7299	出身区：上横道	
梅山 良江	〒、番地変更……………→	〒：260-0045	番地：2-5-18		
荻原 浩	番地訂正……………→	3-23-33	久保 新一	番地訂正……………→	1-18-30, 820
小島 君子	〒、TEL等変更……………→	旧姓：金井	〒：330-0061	区名：さいたま市浦和区	TEL: 048-824-3536
椎名己津男	〒訂正……………→	277-0834	関 義一	区名新設……………→	さいたま市浦和区
中田すみ子	TEL訂正……………→	045-822-3359	長屋 京子	番地訂正……………→	5-14-25
橋詰 照雄	町名訂正……………→	羽村市羽西	半田 幸一	TEL訂正……………→	03-3606-0512
堀内 寅次	〒変更、区名新設……………→	〒：337-0032	区名：さいたま市見沼区		
堀籠 道子	区名新設……………→	さいたま市南区	牧内 正志	TEL訂正……………→	045-363-9787
三井 毅	〒訂正……………→	121-0823			
宮崎 斌司	〒変更、区名新設……………→	〒：337-0053	区名：さいたま市見沼区		
宮本四方子	姓名訂正……………→	四方子	武笠喜久子	TEL新掲……………→	048-624-3424
武捨 衛人	番地訂正……………→	5040, 39-5-405	山口 末子	〒訂正……………→	354-0013

平成14年度 決算報告書

H14年4月1日～H15年3月31日

(単位:円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
通常年会費収入	650,000	329,000	総会費	1,200,000	1,049,355
総会懇親会費収入	1,450,000	873,000	会報発行費	700,000	548,100
真田町補助金	400,000	400,000	事業費	600,000	54,836
広告収入	700,000	550,000	事務通信費	500,000	296,227
寄付金等収入	150,000	120,000	印刷費	200,000	80,115
利息等雑収入	184,768	17,923	会議費	300,000	189,046
			渉外費	100,000	107,000
			交通費	100,000	—
			雑費・手数料	100,000	13,810
			予備	200,000	
当期収入合計	3,534,768	2,289,923	当期支出計		2,338,489
前年繰越額	465,232	465,232	次期繰越額		416,666
合 計	4,000,000	2,755,155	合 計	4,000,000	2,755,155

上記の通り収支決算報告いたします。平成15年3月31日 会計 堀内 寿美 印
 上記の決算報告書は適正かつ真実であるものと認めます。 監事 関谷 義久 印
 監事 塚田 恒雄 印

平成15年度事業計画

- ① 第16回総会及び懇親会の開催(平成15年7月6日)
- ② 会報「日本ダボス」第16号の発行
- ③ 広報紙「しらかば通信」の発行
- ④ ホームページの運営
- ⑤ 会員旅行会、ゴルフ会、マレットゴルフ会等会員相互の親睦をはかる行事の実施
- ⑥ ふるさと訪問の実施
- ⑦ ふるさと特産品の宅配協力
- ⑧ 真田町との交流促進のため、各種文化行事の実施と参加
- ⑨ 会員名簿改訂版の発行、会員の店マップの発行
- ⑩ その他

平成15年度 収支予算

平成15年4月1日～平成16年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
通常年会費収入	650,000	総会懇親会費	1,200,000
総会懇親会費収入	1,200,000	会報発行費	600,000
真田町補助金	300,000	事業費	500,000
広告収入	750,000	事務通信費	400,000
寄付金等収入	150,000	印刷費	150,000
利息等雑収入	33,334	会議費	250,000
		渉外費	100,000
		交通費	100,000
		雑費・手数料	50,000
前年度繰越金	416,666	予備費	150,000
収入合計	3,500,000	支出合計	3,500,000

「東京真田町の会」役員名簿

職 名	氏 名
会 長	塩沢和政
副 会 長	中島正江 飯島慶三郎 山口元彦
理 事	監 事 関谷義久 塚田恒雄
	事務局長 (山口副会長兼務)
	会計理事 堀内寿美
	岩崎みち子 荻原啓治 金子 誠 久保定春 小林正子 柴田小夜子 鈴木邦子 深町共栄 堀内 福 堀内 幸 武捨衛人
顧 問	小林孝雄 清水清晴 三井芳郎

投稿・寄稿のお願い : 日本ダボス17号・しらかば通信8号への投稿・寄稿をお待ちしております。

感想文・紀行文・想い出・近況など、日本ダボスは2,400字以内、しらかば通信は800字以内で長短自由です。
 ご連絡は担当理事の武捨 衛人(Tel・Fax: 042-949-4776)までお願い致します。

祝

東京真田町の会

—会報16号—



勝田電設工業株式会社

電気設備工事設計施工

国土交通大臣許可（特定）第3065号

取締役会長 塩 沢 和 政（大日向出身）

東京真田町の会 会長

本 社 〒132-0032 東京都江戸川区西小松川町 37 番 2 号 TEL・03(3652)8676 FAX・03(3656)3360	茨城支店 〒305-0062 茨城県つくば市大字赤塚 610 番 3 号 TEL・0298(36)4737 FAX・0298(36)4549
関東支店 〒132-0032 東京都江戸川区西小松川町 37 番 2 号 TEL・03(3652)8676 FAX・03(3655)8328	銀座営業所 〒104-0031 東京都中央区京橋 3 丁目 3 番 14 号京橋 AKビル 7F TEL・03(5202)2558 FAX・03(5202)2557
千葉支店 〒273-0018 千葉県船橋市栄町 2 丁目 3 番 10 号 TEL・047(437)8551 FAX・047(495)5755	E-mail : densetsu0@katsuta-g.com HP : http://www.katsuta-g.com/

TKC パートナー 会計グループ

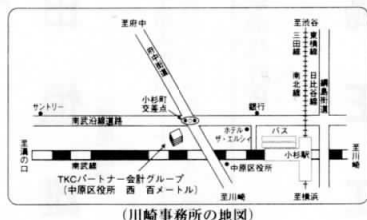
パートナー制による税理士等の事務所
 TKC 医療介護総研株式会社
 株式会社東京パートナー会計事務所
 TKC エステート株式会社
 TKC 経営労務協会

パートナー代表取締役所長 関谷義久（戸沢出身）

住所〒211-0063 川崎市中原区小杉町 1-403-4 パロス103 TEL044(711)0055
 FAX044(733)7332

（所属グループと役割）

税理士と公認会計士の全国組織
 TKC全国会とTKC神奈川会の顧問
 社団法人日本医業経営コンサルタント協会
 常務理事・神奈川県支部長



川崎事務所
 〒211-0067
 川崎市中原区今井上町34番地
 和田ビル
 TEL 044(733)1101(代)
 FAX 044(733)1102



横浜事務所
 〒231-0037
 横浜市中区富士見町2番地6
 コルニッシュビル
 TEL 045(242)3101(代)
 FAX 045(242)3102

祝

東京真田町の会

—会報16号—

東京真田町の会

副会長

飯島 慶三郎

(下原出身)

〒180-0002 武蔵野市吉祥寺東町二・三三・十八
TEL 〇四二・二二一・八五九七
携帯 〇九〇・三五一四・二五〇二土地・建物・測量・登記
飯嶋測量事務所土地調査士
家屋

飯嶋 義道

〒230-0072 横浜市鶴見区梶山二三八十一
TEL 〇四五・五八一〇・三二四
FAX 〇四五・五七一五・〇五五

東京真田町の会

理事

岩崎 みち子

(菅平出身)

〒110-0003 東京都台東区根岸三・二一・二
TEL 〇三・三八七三・一五九四

東京真田町の会

理事

萩原 啓治

(四日市出身)

〒168-0063 東京都杉並区和泉四・四二・三三・三〇一
TEL 〇三・三三二五・五九三〇

東京真田町の会

理事

金子 誠

(田中出身)

〒364-0035 埼玉県北本市西高尾四・一五六
TEL 〇四八・五九一・四七二八

ディー・アイ・エルマン

☆本格的紳士服・婦人服オーダーメイド

Tel 〇三・三九一・八二八六〇

☆直し専門センター

Tel 〇三・三九一・八二二五五

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨四・三五・一二
久保隆司

東京真田町の会

理事

小林 正子

(下横道出身)

〒349-0217 埼玉県南埼玉郡白岡町小久喜七六・一一
TEL 〇四八・〇九二・一〇八四ビューティサロン テラ
東京真田町の会

理事

柴田 小夜子

(菅平出身)

〒155-0031 東京都世田谷区北沢一・三三・一三
TEL 〇三・三三六六・四〇三五

東京真田町の会

顧問

清水 清晴

(中横道出身)

〒201-0002 東京都柏江市東野川三・二二・二二
TEL 〇四八・〇九二・一〇八四

東京真田町の会

理事

鈴木 邦子

(横尾出身)

〒174-0052 東京都板橋区蓮沼町十七・一二
TEL 〇三・五九七〇・六九六九

東京真田町の会

理事

塚田 恒雄

(横尾出身)

〒277-0063 千葉県柏市西山一・一一・十八
TEL 〇四七・一七五・〇八二三メナード化粧品等々力駅前代行店
東京真田町の会

副会長

中島 正江

(戸沢出身)

〒158-0091 東京都世田谷区中町四・二五・一七E
TEL・FAX 〇三・三三二七・〇二・一三八五菅平産業株式会社
菅平高原温泉

代表取締役

半田 幸弘

(中横道出身)

〒359-0021 埼玉県所沢市東所沢四・三二・四
TEL 〇四・二九四五・二四二五埼玉工業大学
工学部電子工学科
東京真田町の会

理事

深町 共榮

(田中出身)

〒366-0052 深谷市上柴町西五・七八・二
TEL 〇四八・五七二七・一五〇株式会社東都財務情報センター
堀内税務会計事務所

堀内 茂雄

(中横道出身)

〒130-0002 東京都墨田区業平四・一九・四
TEL 〇三・三六二五・二二九一
FAX 〇三・三六二一・〇一六四

祝

東京真田町の会

—会報16号—

人と地球に思いやりある環境づくりを目指して
資源愛護と環境保全は企業の責任

一般貨物運送事業、リサイクル推進事業、一般・産業廃棄物収集運搬

電気自動車 メタノール自動車 CNGトラック

H14環境保全功労環境大臣賞受章

東京都知事賞 受賞・板橋区環境保全優良事業所

みすゞ興業株式会社

代表取締役 荒木 廣之 (真田町下原出身)

〒174-0041 東京都板橋区舟渡2-10-7 TEL 03(3966)2422 FAX 03(3966)2423

自宅 TEL 03(3965)4692

貿易と国際物流のコンサルタント

貿易物流研究所

所長 小林 孝雄 (曲尾出身)
(東京真田町の会 顧問)

〒234-0051 横浜市港南区日野4-45-5

TEL: (045) 843-8041

FAX: (045) 843-8041



プラザ店のご案内

URL: <http://www.rogovski.co.jp/>
E-mail: rogovski@rogovski.co.jp

副社長
調理部長

長 屋 京 子

セントラル
キッチン

東京都世田谷区弦巻5-14-25
☎03(3428)4194 FAX03(3426)4466

ゆったりとしたくつろぎ

アットホームなやすらぎ

シック&カジュアル

ビルの最上階は最高のロケーション。窓際のお席では
眼下に渋谷の街並みが広がります。

20~25名様程の着席パーティーに最適なコーナーが
ございます。是非種々の会合にご利用下さい。

室料(貸切り料)、サービス料
いっさい無し

AM11:00~PM10:00 (ラストオーダーPM9:30) 年中無休

PHONE 03(3463)3665
渋谷駅南口バスターミナル前
渋谷東急プラザ9F・味の名店街

祝

東京真田町の会

—会報16号—

東京真田町の会

理事

堀内 福

〒350-1308 埼玉県狭山市中央三丁目一七番一〇三
TEL 〇四二・九五八・一五七八
(下横道出身)

東京真田町の会

理事

堀内 寿美

〒151-0053 東京都渋谷区代々木二丁目一〇十九
東洋ビル四〇二号
TEL 〇三三三七九一八二
(上横道出身)

東京真田町の会

理事

堀内 幸

〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田七二〇十八
TEL 〇四五・七七三・六七三三
(下横道出身)

東京真田町の会

理事 武捨衛人

〒359-1145 埼玉県所沢市山口五〇四〇、三九五四〇五
TEL 〇四二・九四九・四七七六
(中組出身)

画家 森本幹生

〒211-0062 川崎市中原区小杉陣屋町一六八
TEL 〇四四・七三三・〇二六七
(入軽井沢出身)

御殿場市・裾野市・小山町
長野県人会

柳沢 喜三郎

〒412-0045 静岡県御殿場市川島田七四八二
TEL 〇五五〇八三〇〇八
(萩出身)

(株)アップルサイエンス
(コンピュータ関連)

山岸 栄

本社 真田町傍陽五〇八五
営業所 埼玉県鶴ヶ島市大字三ツ木九二二
TEL 〇四九二七九三三三八

新御茶ノ水法律事務所
東京真田町の会 副会長

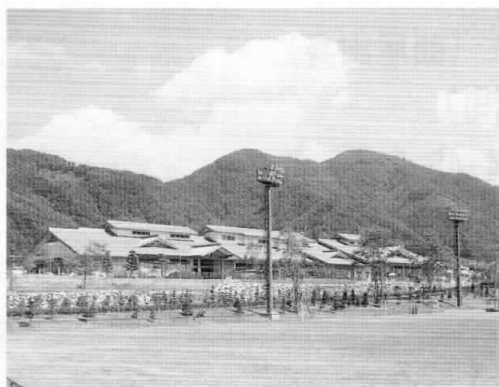
弁護士 山口 元彦

〒113-0033 東京都文京区本郷二十三十湯浅ビル五階
EL 〇三三八一五三三四(代表)
FAX 〇三三八一五三三四
(横沢出身)

真田温泉健康ランド

ふれあいさなだ館

長野県小県郡真田町大字長7369-1 TEL.0268(72)2500
有線 2230



編集後記

「日本ダボス」の一六号を本日お届け致します。

昨年は初めてなのと言う逃げ道もありましたが、今年は只管、頭を下げるしか仕方がありません。先ず以って大方のご容赦を御願致します。

本号ではフォントを1ポイント大きくし、上小地方の方言について柳沢喜三郎様の寄稿を要請し、また懐かしいふるさとの風景スナップを集めてみました。ご意見をお寄せください。皆様のご叱声やご指導を得て更に充実した会報作りをしたいと考えています。どうぞよろしく御願います。

素晴らしい原稿をお寄せ頂いた皆様、ふるさと真田町からの原稿集めに一方ならぬお世話を頂いた真田町役場情報政策課の中山勇次様、本当にお世話になりました。又、町役場教育委員会の武捨義夫様にはふるさとの風景写真を特に撮影していただきました。厚く御礼申し上げます。

平成13年までは20ページ、去年は24ページだったので今年は28ページを目指しましたが、原稿集めに張り切りすぎて29ページになってしまい、やむなく埋め草に1頁ほどの拙文を綴る破目になりました。編集長が下手な文章を一頁も書くとは怪しからん事ですが編集の都合でもありますのでご容赦頂きたいと思ひます。

広報担当の理事の皆さんには年末の心せわしい時期に校正に精力的に取り組んでいただきました。記して感謝の意を表したいと思います。

(武捨衛人 記)

懐かしいふるさとの風景から・2

写真撮影：編集部 武拾 衛人



架け替えられる“駒込橋”と太郎山の遠景



コスモスに秋色漂う“八幡様”(大庭)



昔湯治場、今無人の矢坪温泉…
懐かしい廃屋の離れ棟



中組付近から地蔵峠方面を望む…
澄んだ空、白い雲



地蔵峠近くに最近誕生した
“十福の湯”温泉



傍陽方面から“烏帽子岳”の雄姿を望む



本原中学校付近



育英学校“原之郷”の見事なモニュメント

益々躍進を続ける 真田不動産グループ

本社貳番館ビル竣工



貳番館

壹番館

WAKO真田本社ビル

壹番館

1F ●特選輸入洋品 WAKO ショールーム ☎03-3620-2411
 ●総合不動産業 株式会社 真田不動産 ☎03-3620-2511
 2F 貸事務所（歯科医院）
 3F～6F IMPERIAL HORIUCHI（賃貸マンション25室所有）

貳番館

1F 店 舗
 2F～6F IMPERIAL HORIUCHI（賃貸マンション28室所有）



株式会社 真田不動産

代表取締役 堀内 政

〒120-0005 東京都足立区綾瀬6-30-8（WAKO真田ビル1階）

<http://www.sanada-fudosan.com>

自宅：足立区青井4-4-10 03-3840-3211



真田家伝来
（甲冑）

当社所蔵



代表取締役

堀内 政

東京都知事（5）第55677号



株式会社 真田不動産

代表取締役 堀内 政

〒120-0005

東京都足立区綾瀬6-30-8（WAKO・真田ビル1階）

TEL. 03(3620) 2511(代) / FAX. 03(3620) 2744

<http://www.sanada-fudosan.com>